

# 風評の影響の払拭に向けた取組について

令和5年4月  
環境省

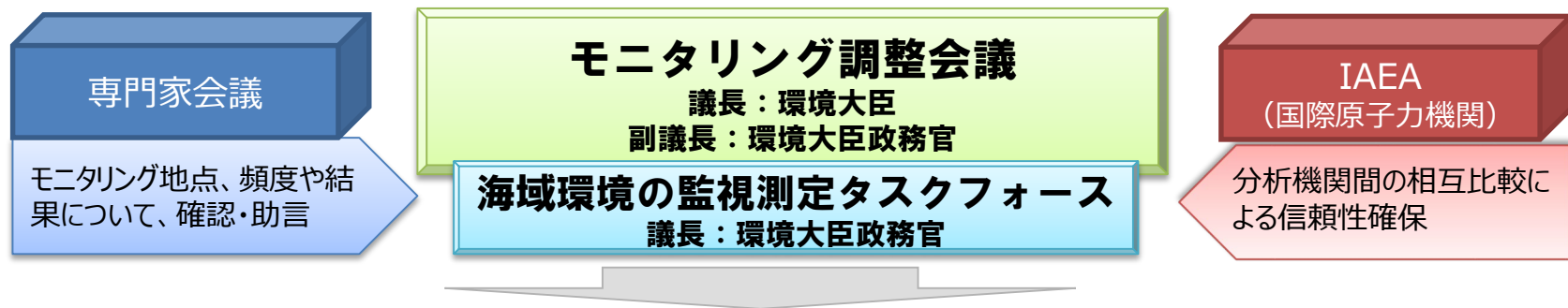


# 1. 風評影響を最大限抑制するための海域のモニタリング

## ○ モニタリングにおける客観性・透明性・信頼性の確保

- 『モニタリング調整会議』(議長:環境大臣)において策定した「総合モニタリング計画」に基づき、関係省庁が連携して海域モニタリングを実施。  
環境省では、ALPS処理水に係る海域モニタリングを令和4年度から開始。
- 専門家による会議において、海域モニタリングの実施状況について確認・助言を得る。
- IAEAの協力を得て、分析機関間の相互比較を行うなどにより、分析能力の信頼性を確保する。
- モニタリング結果は随時公表。本年2月に、関係機関によるモニタリング結果を一元的かつ分かりやすく情報発信するための新規Webサイトを立ち上げ。

※これまでの分析結果では、トリチウムの濃度範囲は従来の海域の環境モニタリングの測定値の傾向から大きな変化は無かった。



客観性・透明性・信頼性を最大限重視したモニタリングの実施により風評影響の抑制につなげる。

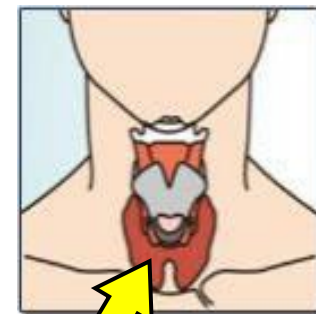
## ○ 今後の取組

- 放出開始後は、速報のための分析も行うなどモニタリングを強化・拡充して実施予定。

## 2. 放射線の健康影響（福島県「県民健康調査」甲状腺検査）

### (1) 目的

- チヨルノービリ原発事故では事故の4～5年後に小児甲状腺がんの発生が報告されたため、子どもたちの甲状腺への放射線の影響が心配されている。
- そのため、福島県は県民健康調査の一環として、子どもたちの甲状腺の状態を把握し、健康を長期に見守ることを目的に甲状腺検査を実施。



甲状腺

内分泌臓器の一つ。食物中のヨウ素から、甲状腺ホルモンを作る。

(2) 対象者 事故当時におおむね18歳以下だった全県民等

| 検査実施状況                    | 先行検査<br>(検査1回目)<br>(H23～25年度) | 本格検査<br>(検査2回目)<br>(H26～27年度) | 本格検査<br>(検査3回目)<br>(H28～29年度) | 本格検査<br>(検査4回目)<br>(H30～R元年度) | 本格検査<br>(検査5回目)<br>(R2～4年度) | 本格検査<br>(25歳の節目の検査)<br>(H29年度～) |
|---------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| 検査対象者数                    | 367,637人                      | 381,237人                      | 336,667人                      | 294,228人                      | 252,915人                    | 108,711人                        |
| 一次検査受診者数                  | 300,472人                      | 270,552人                      | 217,922人                      | 183,410人                      | 89,094人                     | 10,240人                         |
| 悪性ないし悪性疑い<br>(がん/悪性疑い/良性) | <b>116</b><br>(101 / 14 / 1)  | <b>71</b><br>(56 / 15 / 0)    | <b>31</b><br>(29 / 2 / 0)     | <b>39</b><br>(34 / 5 / 0)     | <b>26</b><br>(16 / 10 / 0)  | <b>19</b><br>(11 / 8 / 0)       |

悪性ないし悪性疑い : 302名  
手術の結果がん確定 : 247名

## 2. 放射線の健康影響（国内外の公的な専門家会議による甲状腺検査の評価）

現時点において、福島原発事故による放射線被ばくと甲状腺がんの間の関連は認められない。

### 福島県「県民健康調査」検討委員会

#### ●福島県「県民健康調査」検討委員会の中間とりまとめ（2016年3月）

これまで（※1）に発見された甲状腺がんについては、総合的に判断して、放射線の影響とは考えにくい。

（※1）先行検査（検査1回目） 2011～2013年度に実施。

#### ●福島県「県民健康調査」検討委員会における本格検査（検査2回目）に対する評価の概要（2019年7月）

福島県「県民健康調査」検討委員会の下に設置している甲状腺検査評価部会において「現時点において本格検査（検査2回目）（※2）に発見された甲状腺がんと放射線被ばくの間の関連は認められない」とまとめられ、検討委員会にてこの報告が了承された。

（※2）甲状腺検査は各対象者に原則2年に1回実施しており、本格検査（検査2回目）は、2014～2015年度に実施された検査。

### 原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）

#### ●2013年福島原発事故報告書（2014年4月公表）

福島第一原発事故後の甲状腺吸収線量がチェルノブイリ事故後の線量よりも大幅に低いため、福島県でチェルノブイリ原発事故の時のように多数の放射線誘発性甲状腺がんが発生するというように考える必要はない。

#### ●2020/2021年報告書（2021年3月公表）

- ・見直された公衆の線量はUNSCEAR2013年報告書と比較して減少、または同程度であり放射線被ばくが直接の原因となるような将来的な健康影響は見られそうにないと引き続きみなす。
- ・被ばくした子供たちの間で甲状腺がんの検出数が大きく増加している原因は放射線被ばくではなく、高感度もしくは高精度な超音波スクリーニングがもたらした結果である。

## 2. 放射線の健康影響（風評払拭に係る取組「ぐるぐるプロジェクト」）

### ぐるぐるプロジェクトとは

放射線健康影響に関する課題を通じ、

**つむぐ**：「学び・知をつむ”ぐ”」、

**つなぐ**：「人・町・組織をつな”ぐ”」、

**つたわる**：「自分ごととしてつたわ”る”」

ことにより、風評にまどわされない適正な判断力を養っていくことで、正確な情報を全国に分かりやすく発信する取組。



ぐるぐるプロジェクト



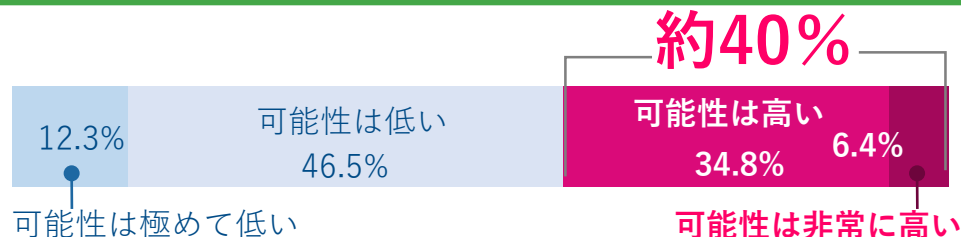
ぐるぐるプロジェクト  
公式ホームページ



ぐるぐるプロジェクト  
公式YouTube

### 環境省令和2年度アンケート調査結果

現在の放射線被ばくで、次世代以降の人（将来生まれてくる自分の子や孫など）への健康影響が福島県民の方々にどのくらい起こると思いますか？



出典：環境省令和2年度放射線の健康影響に関する情報発信実施業務 アンケート調査 より抜粋（2021年3月）

### ぐるぐるプロジェクトの目標

2025年度までに「現在の放射線被ばくで、次世代への健康影響が福島県民に起こる可能性が高い」と思っている方を（2020年度）40%から20%へ減らすこととしている。

現状(2020年度)

40%



目標達成(2025年度)

20%

## 2. 放射線の健康影響（風評払拭に係る取組「ぐるぐるプロジェクト」）

### 令和4年度キックオフミーティング（2022年6月）

- 落語家の桂三四郎氏から、ぐるぐるプロジェクトの取組や、東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地における放射線の健康影響に関して6割が正しい理解をしていることを説明。
- 大竹文雄特任教授（大阪大学）の基調講演「同じ意味でも伝え方で意思決定は変わる」を行い、4人のパネリストを招いてディスカッションを行った。



桂三四郎氏  
レクチャー



大竹教授  
基調講演  
ほか

### 日経セミナー×ぐるぐるプロジェクト（2023年2月）

- 落語家の桂三四郎氏を招いて、  
**創作落語「落語で気がつく、行動経済学」**  
を披露。
- ぐるぐるプロジェクトや企業の事例を紹介しつつ、行動経済学の観点から、行政や企業が陥りやすいリスクについて討論を行った。



### 令和4年度ぐるぐるプロジェクトフォーラム（2023年2月）

- 第一部ではラジエーションカレッジの各部門の優秀賞4名を表彰した。  
受賞したプレゼンや作品の上映会などを行った。
- 第二部では「伝わらないメッセージを斬る」と題し、ゲストの有識者からぐるぐるプロジェクトの発信方法について厳しい指摘がなされた。



第1部  
表彰式



第2部  
公開講座

# 2. 放射線の健康影響（風評払拭に係る取組「ぐるぐるプロジェクト」）

## ラジェーションカレッジ

- 全国の企業、学校等でセミナー※<sup>1</sup>を展開した(企業向け：**延べ180団体713名**、学校：**延べ25校1,003名**が参加)。
- 学ぶ場だけでなく、発表の場として収録会等※<sup>2</sup>を開催した(**39作品延べ74名**が参加)。

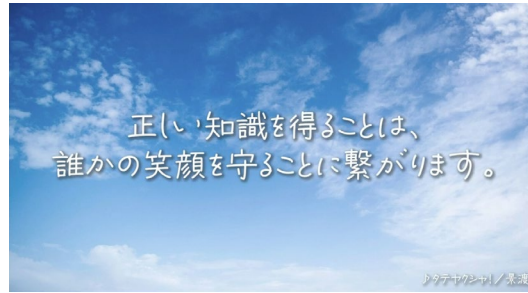
※<sup>1</sup> セミナー内容：放射線の基礎、放射線による健康影響、遺伝性影響、福島原発事故後の状況、リスクコミュニケーションなど

※<sup>2</sup> プレゼン部門、台詞作成部門、漫画作成部門、CM部門、POP部門の計5部門



プレゼンテーション部門

課題：同世代に響くプレゼンテーションを行う。



CM部門

課題：ぐるぐるプロジェクト公式HPへのアクセスを促す動画を作成。



漫画作成部門

課題：ぐるぐるプロジェクト公式HPへのアクセスを促す漫画を作成。



台詞作成部門

課題：予め与えられた設定に基づいて登場人物の会話を作成。優秀作品はドラマ化。



POP部門

課題：放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料のPOPを作成。

# 2. 放射線の健康影響（風評払拭に係る取組「ぐるぐるプロジェクト」）

## リビング福島・郡山への記事掲載（2023年2月）

- 福島県にお住まいの方々に向け、不安をお持ちの方がいることから安心できる情報を届けることを目的に記事を掲載。
- 福島県立医科大学の坪倉正治教授による、放射線の健康影響に関する健康リスクの考え方や、同大学の藤森敬也教授による出生に関する記事などを掲載した。



リビング福島  
リビング郡山  
2023年2月17日掲載



## 科学的知見の信頼性についての啓発

- 学術論文に焦点を当て、論文の成り立ちや、論文と国際機関が出す報告書との違いに触れるなどし、科学的知見の信頼性や科学的根拠の成り立ちについて、わかりやすくまとめた動画の配信や、漫画を配布した。



福島県で行った  
公開講座  
2022年12月17日

